



「シチズンシップ教育としてのモビリティ・マネジメント教育」

京都大学大学院工学研究科 助教 宮川愛由

モビリティ・マネジメント教育（以下、MM教育）とは、個人にも、社会にも望ましい交通行動を自ら選択できる人間の育成を目指した「土木」を題材とした教育実践の一つである。

「教育」と「土木」との接点は一見してわかりにくいかもしれないが、平成18年に全文の改正が行われた教育基本法の前文がその手がかりとなる。——（中略）我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。——。これを達成するための教育とはいかなるものか、を考えたとき、土木こそが、極めて重要な教材となり得ると思われる。なぜなら、土木とは、短期的、私的利益ではなく、長期的かつ社会全体、つまり公共の観点から望ましい社会の実現を目指す営みであり、その営みを学び、それに参画することは公共の精神の醸成をもたらすものと考えられるためである。

MM教育とは、子どもにとって身近な「モビリティ（交通）」を題材として、社会問題に対する気付きを与え、その解決策を知らせ、解決に向けて自らの態度を見直すとともに、家族や社会というに他者に対して能動的な働きかけができる公共人の育成を企図した実践的なプログラムであり、まさに公共の精神を醸成するシチズンシップ教育として、今後、発展が期待される教育実践の一つといえよう。